

古民家を活用した「園芸を楽しむことができる認知症カフェ」の実践

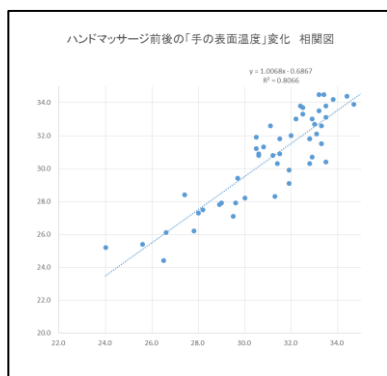
伊藤鈴華*・阿部一恵*・荒関美祐*・岩谷千夏*・古川慧蓮*・白戸亜希*・
外崎 葵*・野呂柚果*・工藤未来**・岩崎拓海**・岡田祐也**・川崎瀬奈**・
工藤竜生**・今 永久**・羽場 舜**・平山楓稀**・宮崎 翔**

はじめに

私たちは授業「課題研究」で園芸福祉を専攻している。そこで五所川原市民の高齢化に伴い、地域の居場所を失った認知症高齢者の徘徊などが問題化していることを学んだ。私たちは本校の古民家「耕心庵」を活用し、認知症の人が園芸を楽しむことができる地域の居場所「認知症カフェ」実践プロジェクトへ取り組むこととした。また、生活科学科が今年度で閉科するため、野菜研究室と共同で取り組んだ。

カフェ開設に向けた事前学習 (2016～2017年)

私たちは目標実践へ向けて3つの学習へ取り組んだ。まずは認知症学習として、認知症サポーター養成講座を受講し、理解に努めた。次に認知症の方に適した園芸活動を考察した。私たちは花の栽培管理と活動強度評価を行い、活動を精選した。そして認知症の方の心を無条件で受け入れる手段を身につけた。活動対象者はADL(日常生活動作)、IADL(手段的日常生活動作)に介護が必要な状態である。そこでタッチケアの1つであるハンドマッサージを習得した。身体的効果の調査では、ハンドマッサージ前後の手の表面温度に0.89という強い相関を確認し、ロート製薬株式会社の支援をいただけることになった。



手の表面温度の変化 相関図 (n=52)

認知症カフェは認知症の方以外の利用も前提(オープン型)としている。そこで五所川原市地域包括支援センターへ協力を依頼したところ、研究へ参画していただけることになった。

カフェ開設に向けた施設のDIY (2017年)

耕心庵は今から37年前、女子合宿所として築150年の古民家を五農高に移築した施設である。私たちは耕心庵を認知症カフェとして利用するため、段差の解消、手摺の設置、スロープの設置を行った。また園芸スペースを防草シートで覆い、雑草抑制と凹凸解消を図った。

認知症カフェ「カフェ耕心庵」実践 (2017年)

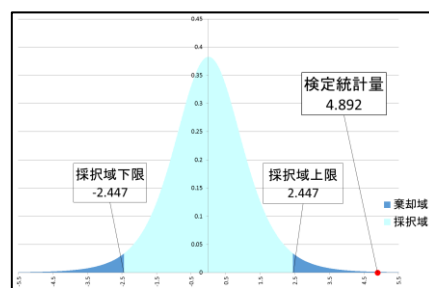
カフェ耕心庵は5・6校時の課題研究の時間に合わせて金曜日午後に実施した。前半30分は屋外活動(定植、摘花、除草と野菜収穫)、後半60分は屋内活動(ハンドマッサージや会話)である。計3回実施したところ、利用者は50名となった。その内訳は認知症の方が22名(43%)、事業所の方が20名(39%)、ご家族の方が3名(6%)、地域の方が6名



(12%)であった。屋外活動のようす

実施前のリハーサルでは危険箇所の確認を行った。運営当日は聞き役に徹し、利用者が存在意義を感じられるような雰囲気づくりに徹した。その結果、利用者は満面の笑顔に変化した。聞き取り調査からも高い評価をいただくことができた。

さらに園芸活動が身体に与える影響を調査するため、赤外線サーモグラフィーを使って認知症高齢者の園芸活動前後の体温を調べた。その結果活動前は平均37.8℃、活動後は38.3℃であった。園芸活動により体温平均(母集団)に影響があったかを有意水準5%で検定したところ、正規分布図の採択域上限を上回っていることから帰無仮説を棄却し、園芸活動



園芸活動後の体温変化に関する検定結果による体温変化がないとはいえないという判断をすることができた。

研究のまとめ

私たちは園芸を楽しむことができる認知症カフェを運営し、利用者の心身へ良い効果をもたらすことができた。産官学が連携して認知症の方の居場所づくりへ取り組んだことは地域課題解決へ向けて一歩を踏み出すことができたと考える。

* 青森県立五所川原農林高等学校 生活科学科 園芸福祉研究室

** 青森県立五所川原農林高等学校 生物生産科 野菜研究室